

【1日目/5月22日(つづき)】

石垣島は気候区分では「亜熱帯」に属します。空港に降り立った瞬間の第一印象は「とにかく蒸し暑い!」でした。レンタカー屋さんまで歩いてだけで汗だくで、こんなに汗をかいたのは本当に久しぶりでした。当然、植生(植物相)も関東地方とは全くちがひ、どこもかしこも「南国」という雰囲気です。



たとえばこの「ハイビスカス」も、石垣島では道端にも庭にも公園にも、ほとんど咲いていない場所はないぐらいどこにでも見られます。「ハイビスカス」というのはこの種の仲間の総称で、沖縄県に咲いているのは「ブソウゲ(扶桑華)」という種類が多いようです。地元では「赤花」とも呼ばれています。

私は固定観念で、ハイビスカスは「草(草本)」だとばかり思っていました。実は「灌木(樹木)」だということを、実物の群落を見て初めて知りました。



このオレンジ色の実も随所に見られます。パイナップルのように見えますが、パイナップルは上向きになります。これは「アダン」という植物の実です。奄美

大島でもたくさん見ました。田中一村が好んで描いた題材で、映画「アダン」(一村の生涯を描いた物語、榎木孝明主演)の題名にもなっています。地元の人の話では食用にもなるそうです。



石垣島南部の玉取崎展望台付近では天気が悪かったのですが、北へ向かうほど雲が晴れて、だんだん明るくなってきました。



一気に島の道路を走破して、石垣島北端の「平久保崎灯台」までやってきました。石垣島は目立った観光スポットに乏しいので、大抵の旅行者はここまで来るようです。駐車場は全部レンタカーでした。



日本人は「端っこ」が好きです。灯台のある風景は特に人気があります。私も灯台を描くのが好きで、ここでも1枚サラッと描いておきました。空港での雨がうそのようで、すっかり良い天気になっていました。



灯台の近くには、岩石の露頭が見られました。石垣島の地質は非常に複雑で、ちょっと調べてみたいと思ったので、露頭から岩石のかけらを1個持ち帰りました。この場合、転石（落ちている石）ではなく、地層から採取することが非常に重要です。



灯台のある岬からは、平久保海岸の汀線がよく見えます。この海岸は「太平洋（画面上方）」と「東シナ海（画面左側）」の海流がぶつかり合う地点にあります。私はここには間違いなく硫黄島噴出の「黒い軽石」が漂着していると予測していました。



海岸に降りる道は地図にもナビにもなく、ちょっと迷いましたが、サトウキビ畑のおじさんに聞いて、難なく行きました。実に静かで美しい海岸です。外国人のカップルが遊んでいるだけで、ほかには観光客も地元の人もいませんでした。



軽石を探すにはコツがあります。汀線（波打ち際）から少し陸寄りに、一列にゴミが打ち上げられたようなラインがあります。満潮時に軽いものが寄せられた跡です。軽石も海水に浮くので、大抵はこのラインに沿って落ちています。やや！黒い石がたくさん見えます。予想した通り、ここには軽石が集まっていました。



2023年10月に硫黄島（東京都）沖の海底噴火によって、大量の軽石が海洋漂流しました。福徳岡ノ場の軽石は真っ白でしたが、硫黄島のものは真っ黒です。持ち上げるとウェハースのように軽く、確かに軽石（正確には「軽岩」）です。さっそく2・3個持ち帰ることにしました。



これよりも北には海しかないなので、南に戻ることになりました。行きとはちがう道で戻ります。もちろん「渋滞」なんか無縁の島道で、実に快適なドライブでした。